

和 而 不 同

いよいよマスクのルールが変わる。厚労省ホームページによれば、『令和五年三月十三日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることになります』とのことだ▼これまで何かと

マスクを着けない人に向けられていた視線が、今後反転してしまうのだろうか。ただ感染予防の観点からは、やはり着用側が困惑する状況だけは避けねばならない▼相手が居る以上、環境にあわせた最低限の配慮は必要だろう。『本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう』（同HP）という註釈が印籠代わりとなり、逆効果を生まないことを切に願う▼「服装は自由です」—そんな時ほど周りが気になる。いわゆる一般常識に照らし、できるだけ皆と「似た」トーンを探る。つまり安心の理屈は「同じであること」というわけだ▼「《個人の判断に委ねる》はずが、かえって迎合を生む」という矛盾。それは自ら「同じであること」を「選んで」いるようで、実は「選ばされて」いるだけなのかもしれない▼ルールは、安全や公平の担保であるゆえに社会という大きな括りの中で、三年にも及ぶ「マスクルール」が撤廃される以上、より個々人の選別力—いま何をすべきか—が問われてくるだろう。

